



## 「外為短期投資家動向調査」結果

<第53回調査>

2013年10月28日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2013年10月15日(火)13:00～2013年10月22日(火)13:00  
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。  
今回の有効回答数は228件。  
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

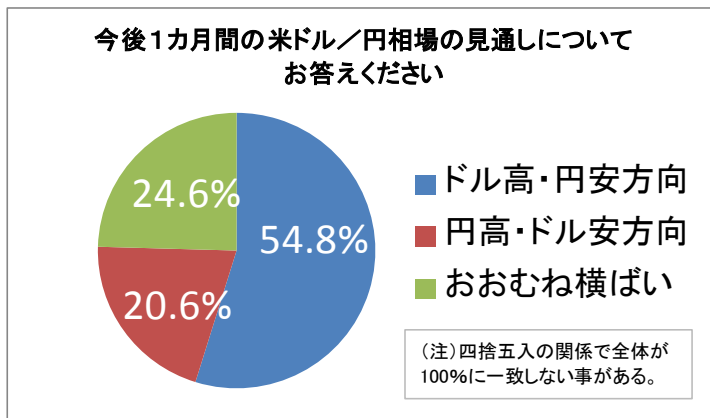
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第53回調査結果略報：米ドル/円強気予想を維持】

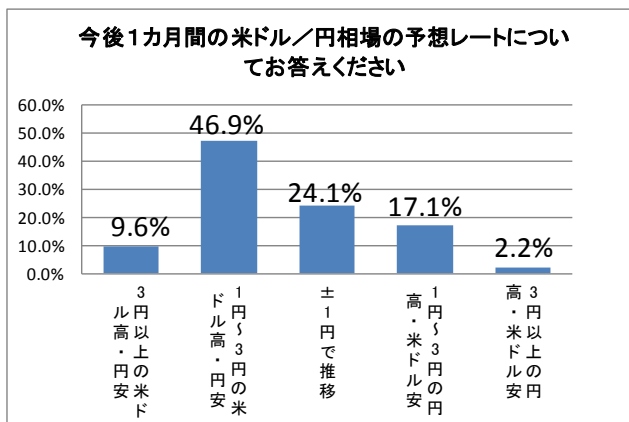
### 問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が54.8%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は20.6%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+34.2%ポイントとなり、前回の+31.7%ポイントから小幅ながらプラス幅が拡大しており、FX投資家が強気姿勢を継続している様子が示された。調査期間中の米ドル/円相場は、97.55円から99.00円という狭いレンジで推移しており、明確な方向感が出なかった。ただ、この間には、米議会において暫定予算と債務上限引き上げに合意が成立して、財政問題をめぐる騒動に一応の決着を見た。米国のデフォルト（債務不履行）懸念がひとまず後退した事が、FX投資家のドル先高感を誘発したと見られる。※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が46.9%と最も多く、「±1円で推移」が24.1%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は17.1%、「3円以上の米ドル高・円安」は9.6%、「3円以上の円高・米ドル安」は2.2%という結果になった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安寄りに傾いており、問1の結果と整合的と言える。特徴としては、引き続き、穏やかな上昇を見込む向きが多いという点であろう。「1円～3円の米ドル高・円安」と「±1円で推移」に7割を超える回答が集まっており、調査期間中のドル/円相場が概ね98円台で推移していた事から、FX投資家の米ドル/円の予想コアレンジはおおよそ97円～101円と考えられる。



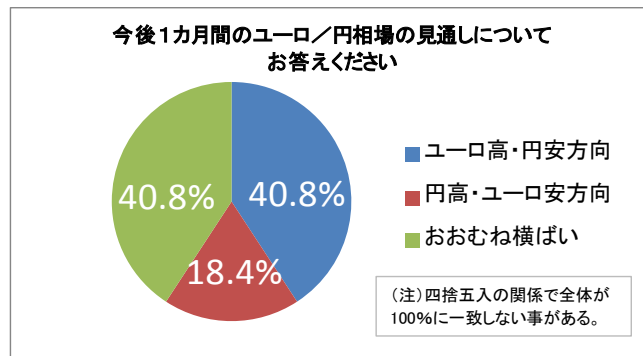
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が40.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が18.4%となった。この結果「ユーロ円予想DIは+22.4%ポイント」となり、前月(+19.8%ポイント)から小幅にプラス幅が拡大した。調査期間中のユーロ/円相場は、132円台後半から順調に上値を伸ばし、22日の海外市場では、約4年ぶりの高値となる135.50円を示現した。こうした値動きの中、FX投資家の予想はユーロ高・円安に傾いたと見られるが、「おおむね横ばい」と答えた割合が「ユーロ高・円安」と並んだ点を鑑みると、ユーロ/円の上昇基調を懐疑的に見ているFX投資家も少なくないようだ。

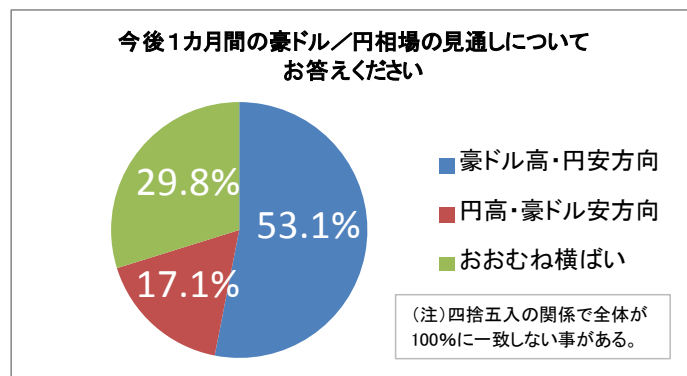
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が53.1%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は17.1%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+36.0%ポイントと、前月(+25.3%ポイント)からプラス幅を拡大した。調査期間中の豪ドル/円相場は、93円台前半から95円台まで上値を伸ばすなど、堅調に推移した。米国で、デフォルト懸念が後退する一方、量的緩和の長期化期待が浮上したため、世界的に株価が上昇するリスクオンの商状となった事が、FX投資家の豪ドル強気・円弱気予想に繋がったのだろう。なお、豪ドル/円予想DIが、米ドル/円を上回るプラス幅を記録するのは2012年9月の第40回調査以来13カ月ぶりの事になる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

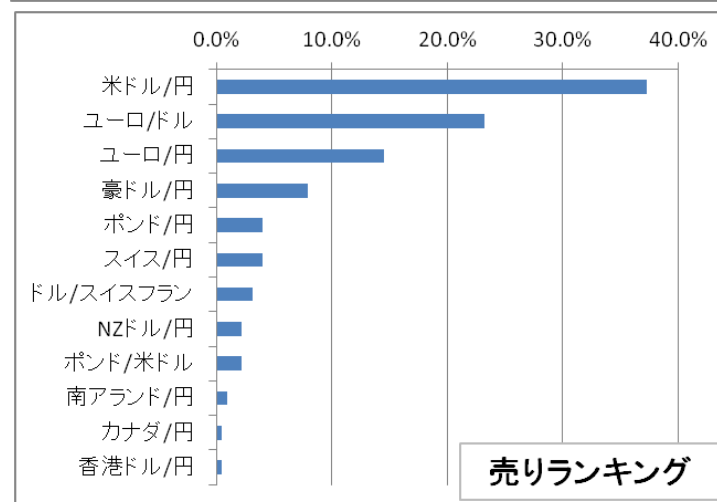
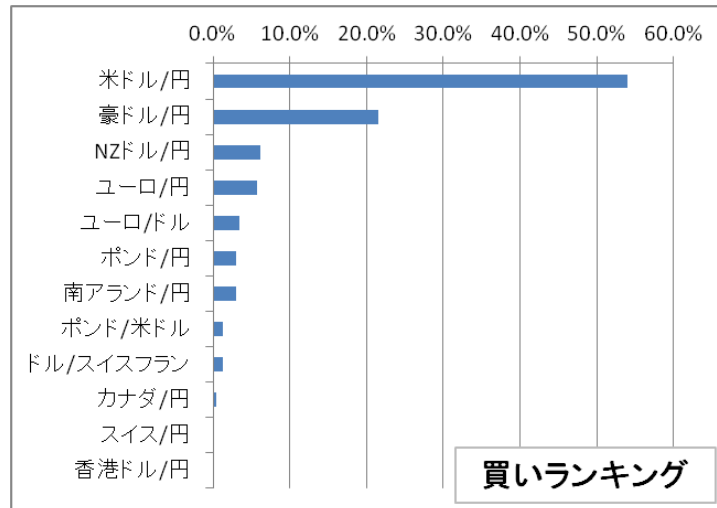


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

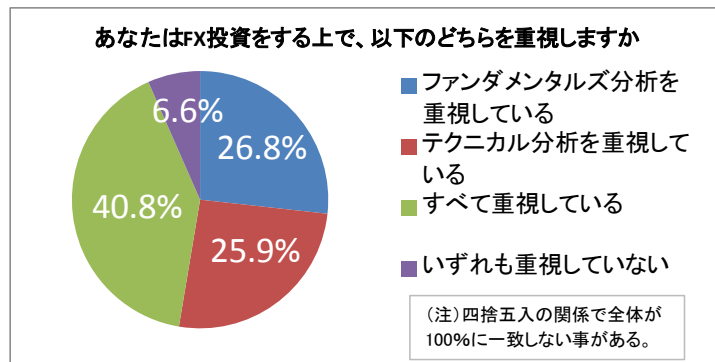
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(53.9%)、2位豪ドル/円(21.5%)、3位NZドル/円(6.1%)、ユーロ/円4位(5.7%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(37.3%)、2位ユーロ/ドル(23.2%)、3位ユーロ/円(14.5%)、4位豪ドル/円(7.9%)、となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が後続に大差を付けてトップの座をキープしており、2位の豪ドル/円も前回と同様だ。3位以下については、順にやや変動が見られたが、回答割合には目立った変化がなかった。なお、米ドル/円の「買い」ランキングトップは昨年10月以来13カ月連続である。一方の「売り」で注目通貨ペアについても、「米ドル/円」が5カ月連続でトップを守り、回答割合も前回(36.7%)とほぼ同じであった。ユーロ/ドルが「売り」ランキングの2番手である点も前回と同様だ。FX投資家の関心対象は前月からほぼ変化しておらず、良くも悪くも「米ドル/円」に興味が集まる傾向が続いている。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

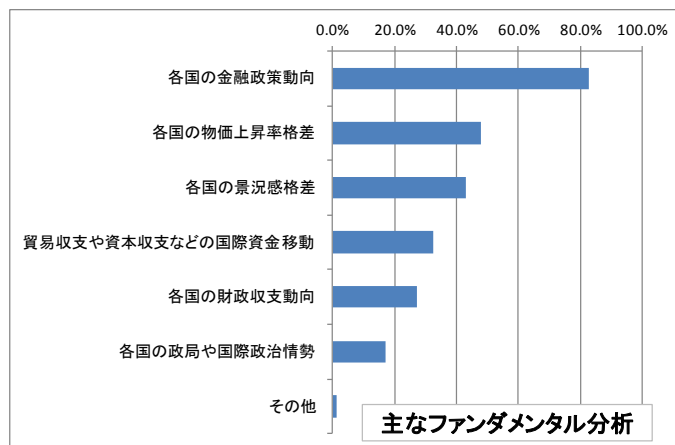
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が26.8%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が25.9%、「すべて重視している」が40.8%という回答割合であった。前回までの調査結果と比べて回答割合のバランスに目立った変化は見られない。ただ、中長期的な傾向としては、「すべて重視している」が漸増傾向にあるようだ。「相場の変動要因が多方面に渡る為替市場に参戦するためには、テクニカル、ファンダメンタルズの両面からの分析が欠かせない」と考える投資家が増加するのは自然な流れだと思われる。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか？(いくつでも)**

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(82.8%)」と答えた割合が最も多く、「各国の物価上昇率格差(47.9%)」、「各国の景況感格差(43.2%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(32.5%)」、「各国の財政収支動向(27.2%)」、「各国の政局や国際政治情勢(17.2%)」の順に続いた。今回も「各国の金融政策動向」が圧倒的な回答割合を集めている。一方で、「各国の政局や国際政治情勢」は、前回の43.5%から大きく回答割合が低下した。米国議会における財政協議の紛糾中に、為替相場がそれほど大きく変動しなかった事が影響しているのではないだろうか。「政治の茶番劇」に一喜一憂するのは得策ではないとの思いが込められているのかもしれない。



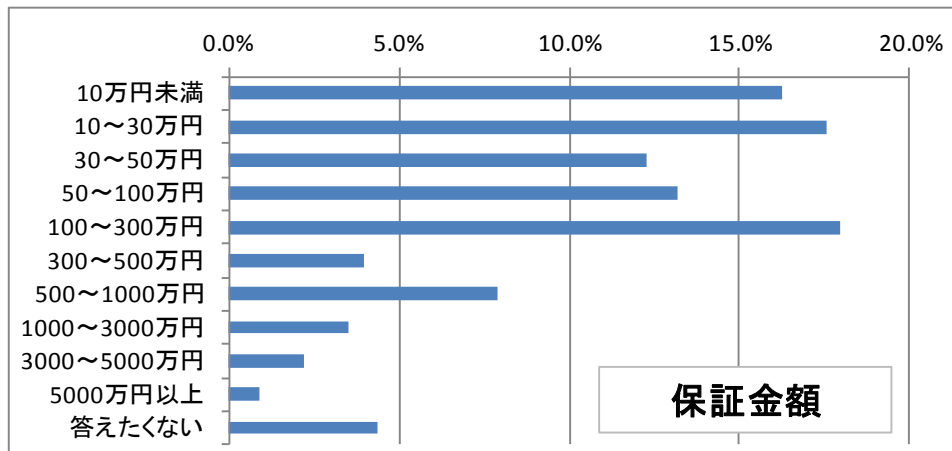
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



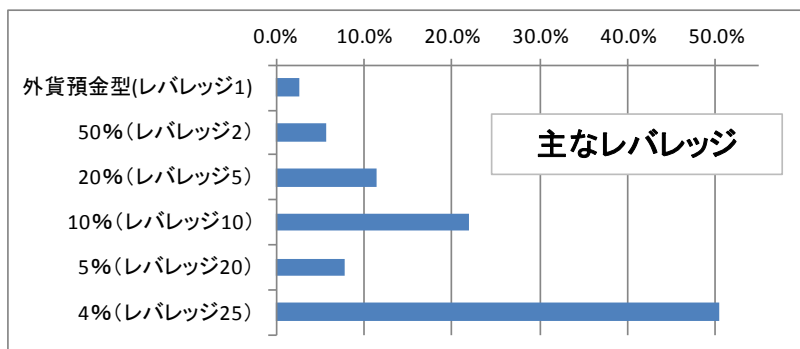
問8: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「100～300万円」と答えた割合が18.0%と最も多く、以下「10～30万円(17.5%)」、「10万円未満(16.2%)」、「50～100万円(13.2%)」、「30～50万円(12.3%)」と続いた。調査開始以来始めて「100～300万円」が最高回答割合を集め、これまで最高位を守り続けた「10万円未満」は3番手に後退した。また、「500万円以上」と答えた合算割合は前回の11.3%から14.5%に増加しており、FX投資家が保証金を増額し始めたと見る事も可能ではある。ただ、市場全体の売買高が数ヶ月前に比べ減少している点を考慮すると、やや不整合な動きに思える。今回の調査については、外為どっとコム社の取引システム移行に絡んで回答者数が比較的少なかった事から、回答に偏りが見られた可能性も否定できない。次回以降の結果に注目しておきたい。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が50.4%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が21.9%、「20%(レバレッジ5)」が11.4%と続き、以下、「5%(レバレッジ20)」が7.9%、「50%(レバレッジ2)」が5.7%と続いた。最大レバレッジである4%(25倍)を主に活用する向きが半数を占めており、順位も回答割合も前回調査とおおむね同様の結果となった。可能な限りの最大レバレッジを活用する取引スタイルが、FX投資家層に定着したと言えるだろう。なお、今回の調査に回答を寄せたFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は17.1倍と、前回の16.3倍からやや上昇した。

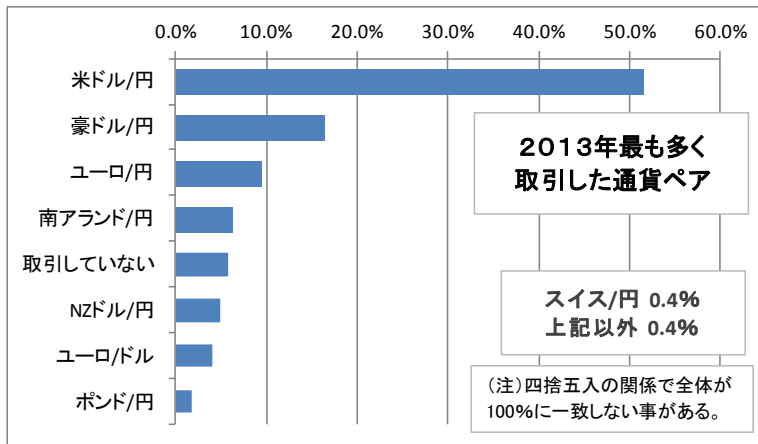


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

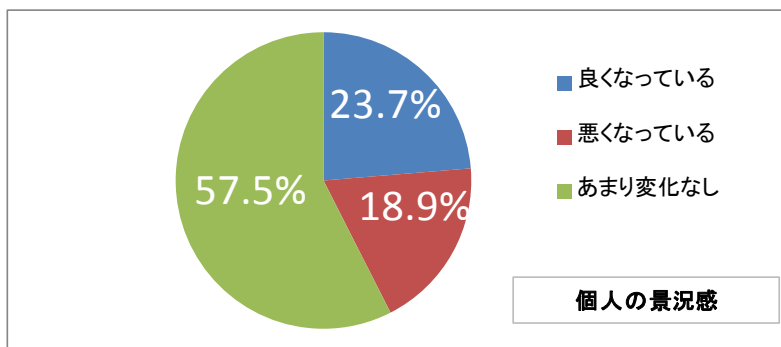
**問10: 2013年1月からこれまで、新規注文をしポジションを持った通貨ペアについて、合計してもっとも取引量が多かった通貨ペアは何でしょうか(ひとつだけ)。**

今月の特別質問項目として「今年、最も取引量が多かった通貨ペアは？」と尋ねたところ、「米ドル/円」が51.3%と過半数を占めた。次いで「豪ドル/円(16.2%)」、「ユーロ/円(9.2%)」、「南アランド/円(6.1%)」と続いた。1年前の第41回調査で同じ質問をしたところ、その回答割合は「豪ドル/円」が31.4%と最も多く、「米ドル/円」は23.5%で2番手にとどまっていた。また、「ユーロ/円」は17.1%であった。上位の顔ぶれ自体は、1年前と変わらないものの、取引量の序列については大きな変化が見られた。アベノミクス相場は、米ドル/円に取引が一極集中するという思いがけない波及効果を生んだ事になる。



**問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)**

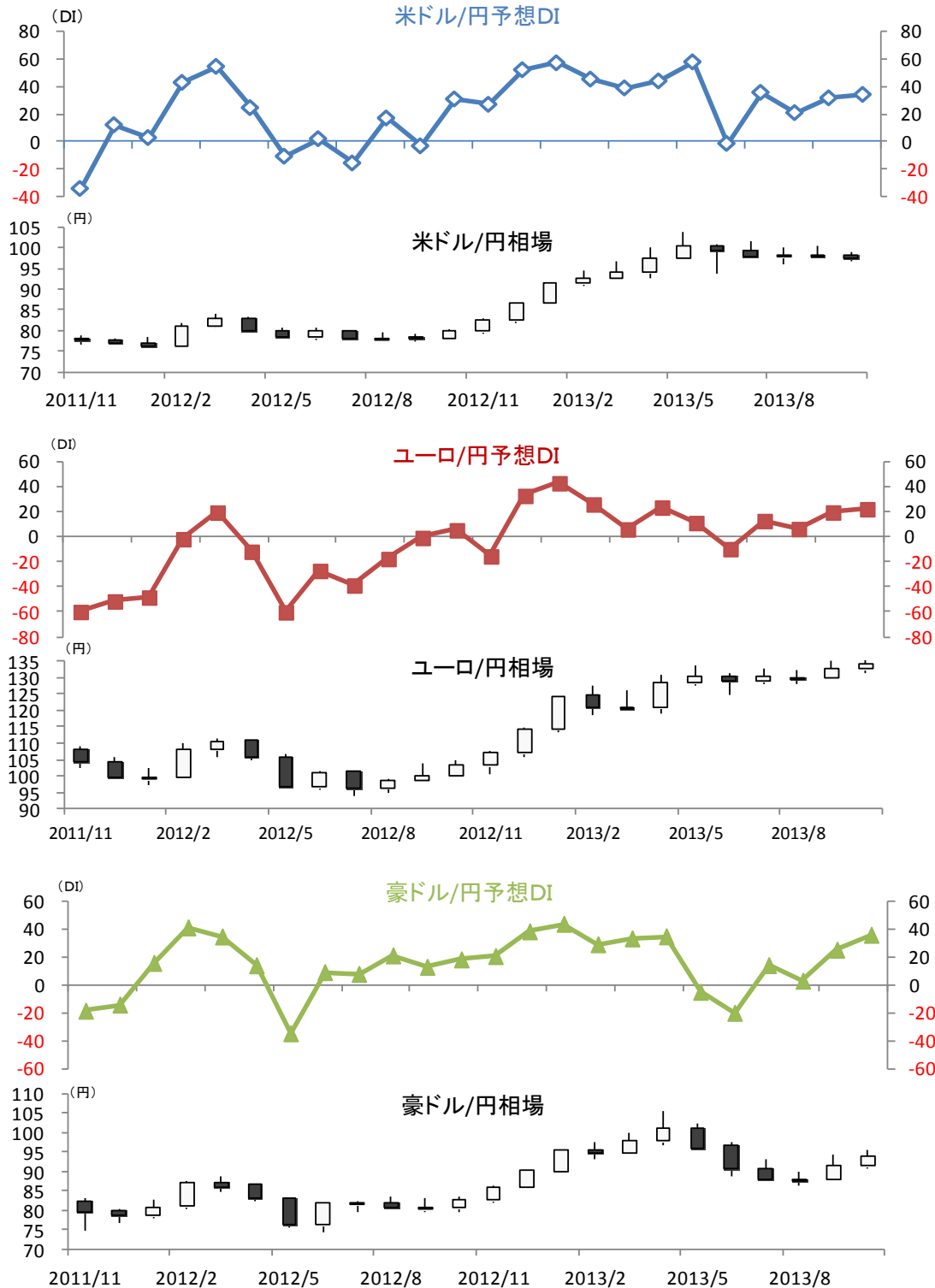
今月のもうひとつの特別質問項目として「あなた個人の景況感はいかがですか？」と尋ねたところ、「良くなっている」が23.7%、「悪くなっている」が18.9%、「あまり変化なし」が57.5%という結果となった。今年7月の第50回調査で同じ質問をした際は、「良くなっている(21.9%)」、「悪くなっている(12.3%)」、「あまり変化なし(65.8%)」であった。全体として目立った変化はないが、「悪くなっている」がやや増加している点が気付きではある。なお、1年前の第41回調査では「良くなっている」が11.5%、「悪くなっている」が36.0%であった。昨年後半から、アベノミクス効果によってFX投資家の景況感改善が進んだ事は間違いないが、足元では、その改善ペースが鈍り始めているようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第53回目となりました。調査開始から4年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com